

安全データシート

アラニカルブ

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: アラニカルブ
CB番号	: CB3452930
CAS	: 83130-01-2
同義語	: アラニカルブ, エチル=(Z)-3-[N-ベンジル-N-[[メチル(1-メチルチオエチリデン)アミノ]オキシカルボニル]アミノ]チオ]アミノ]プロピオナート

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 農薬（殺虫剤）
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H18.9.20 (環境に対する有害性についてはH18.3.31)、GHS分類マニュアル(H18.2.10 版)を使用

物理化学的危険性

金属腐食性物質 分類できない

有機過氧化物 分類対象外

酸化性固体 分類できない

酸化性液体 分類対象外

水反応可燃性化学品 分類対象外

自己発熱性化学品 分類できない

自然発火性固体 分類できない

自然発火性液体 分類対象外

自己反応性化学品 分類できない

可燃性固体 分類できない

引火性液体 分類対象外

高圧ガス 分類対象外

支燃性・酸化性ガス類 分類対象外

可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

可燃性・引火性ガス 分類対象外

火薬類 分類できない

健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 区分2(神経系 全身性)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分1(神経系 全身性)

生殖毒性 区分外

発がん性 区分外

生殖細胞変異原性 区分外

皮膚感作性 区分外

呼吸器感作性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分外

皮膚腐食性・刺激性 区分外

急性毒性(吸入:ミスト) 分類対象外

急性毒性(吸入:粉じん) 分類できない

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(経皮) 区分外

急性毒性(経口) 区分4

環境に対する有害性

水生環境慢性有害性 区分1

水生環境急性有害性 区分1

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS06	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

H330 吸入すると生命に危険。

H302 飲み込むと有害。

注意書き

安全対策

P284 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

P273 環境への放出を避けること。

P260 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーを吸入しないこと。

応急措置

P391 漏出物を回収すること。

P304 + P340 + P310 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し，呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

保管

注意：物質は完全にはテストされていません。

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: Ethyl (Z)-N-benzyl-N-[[methyl(1-methylthioethylideneamino-oxycarbonyl)amino]thio]-β-alaninate
化学特性(示性式、構造式 等)	: C17H25N3O4S2
分子量	: 399.53 g/mol
CAS番号	: 83130-01-2
化審法官報公示番号	: -
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。直ちに被災者を病院に連れて行く。医師に相談する。

眼に入った場合

多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

5.2 特有の危険有害性

可燃性。

硫黄酸化物

窒素酸化物(NOx)

炭素酸化物

5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。

5.4 詳細情報

データなし

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

呼吸保護（服）を着用。粉じんの発生を避ける。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。安全な場所に避難する。粉じんを吸い込まないように留意。個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。掃いてシャベルですくい取る。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

皮膚や眼への接触を避けること。粉じんやエアゾルを発生させない。

火災及び爆発の予防

粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。

衛生対策

皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。休憩前や製品取扱い直後には手を洗う。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 6.1B: 不燃性、急性毒性カテゴリー1および2 / 猛毒性危険物

保管条件

冷所に保管。容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。保管安定性推奨された保管温度2 - 8 °C

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。休憩前や製品取扱い直後には手を洗う。

保護具

眼 / 顔面の保護

顔面シールドおよび保護メガネ NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.2 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® P (KCL 743 / Aldrich Z677388, Size M)

飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.2 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® P (KCL 743 / Aldrich Z677388, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

身体の保護

化学防護服, 特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選

択しなければならない。

呼吸用保護具

リスクアセスメントによりろ過式呼吸用保護具が適切であると示されている場所では、工学的制御のバックアップとして、N100型（US）またはP3型（EN 143）呼吸用保護具カートリッジ付き全面形呼吸用保護具を使用する。呼吸用保護具が唯一の保護手段である場合、全面形送気マスクを使用する。NIOSH（US）またはCEN（EU）などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

環境暴露の制御

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	固体
色	データなし
臭い	データなし
pH	データなし
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
log Kow=3.43 PHYSPROP Database (2005)	
水 : 3.63mg/L (25℃) (推定値) : NITE総合検索 (Access on Dec.2008)	
データなし	
データなし	
データなし	
5.2E-08mmHg (25℃) (推定値) : NITE総合検索 (Access on Dec.2008)	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
47℃ : PHYSPROP Database (Access on Dec.2008)	
融点・凝固点	
47℃ : PHYSPROP Database (Access on Dec.2008)	
沸点、初留点及び沸騰範囲	
データなし	
引火点	

データなし

自然発火温度

データなし

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

5.2E-08mmHg (25℃) (推定値) : NITE総合検索 (Access on Dec.2008)

蒸気密度

データなし

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

データなし

溶解度

水 : 3.63mg/L (25℃) (推定値) : NITE総合検索 (Access on Dec.2008)

オクタノール・水分配係数

log Kow=3.43 PHYSPROP Database (2005)

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

データなし

10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

データなし

10.5 混触危険物質

強酸化剤

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットを用いた経口毒性試験における雌雄のLD50値の低い方の値、LD50=397 mg/kg(農薬登録申請資料)に基づき、区分4とした。

経皮

ラットを用いた経皮毒性試験のLD50>2000 mg/kg(死亡例なし)(農薬登録申請資料)に基づき、区分外とした。

吸入

吸入(粉じん): ラットを用いた吸入毒性試験で0.205 mg/Lでは死亡が見られなかったが、LC50値が得られていないため(農薬登録申請資料)、分類できないとした。

吸入(蒸気): データなし。

吸入(ガス): GHSの定義による固体である。

皮膚腐食性・刺激性

ウサギを用いた皮膚一次刺激性試験において、いずれの動物にも刺激が認められず、一次刺激指数(P.I.I.)も0であった(農薬登録申請資料)ことに基づき、区分外とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギを用いた眼一次刺激性試験において、観察時間内に眼に対する重篤な損傷/眼刺激性についての所見が得られていない(農薬登録申請資料)ことに基づき、区分外とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし。 皮膚感作性:モルモットを用いた皮膚感作性試験で陰性との記載(農薬登録申請資料)に基づき、区分外とした。

生殖細胞変異原性

ヒト経世代疫学、経世代変異原性試験、生殖細胞in vivo変異原性試験データが無く、2つの体細胞in vivo変異原性試験(ラット骨髄細胞を用いる

in vivo染色体異常試験、およびマウス赤血球を用いる小核試験)で陰性との記載(農薬登録申請資料)に基づき、区分外とした。

発がん性

マウスを用いた発がん性試験において、投与に起因する腫瘍の増加が見られないとの記載(農薬登録申請資料)に基づき、区分外とした。

生殖毒性

経口投与によるラットおよびウサギの試験において、親動物に対する生殖行動および生殖能力に対する悪影響が見られず、胎児毒性および仔動物への催奇形性が認められないとの記載(農薬登録申請資料)に基づき、区分外とした。

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

ラットの経口投与および吸入(粉じん)投与で、区分1のガイダンス値範囲内の用量(200 mg/kg、0.2 mg/L)で、自発運動の減少、目及び鼻からの赤い流出物、運動失調、挙動の抑制、衰弱、流延、振せん、丸背及び眼球突出などが見られるとの記載(農薬登録申請資料)に基づき、区分1(全身性、神経系)とした。

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

ラットの試験において、区分2のガイダンス値範囲内の用量(11.4 mg/kgおよび38.9 mg/kg)で、体重増加抑制、血液学的検査値への影響および赤血球コリンエステラーゼ活性の減少が見られたとの記載(農薬登録申請資料)に基づき、区分2(全身性、神経系)とした。

吸引性呼吸器有害性

データなし。

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

LC50 - Cyprinus carpio (コイ) - 1.1 mg/l - 48.0 h

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

EC50 - Daphnia (ミジンコ属) - 0.05 mg/l - 48 h

12.2 残留性・分解性

生物分解性があると期待されている

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壌中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。可燃性溶剤に溶解または混合し、アフターバーナーとスクラバーが備えられた化学焼却炉で焼却する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：2811 IMDG（海上規制）：2811 IATA-DGR（航空規制）：2811

14.2 国連輸送名

IATA-DGR（航空規制）：Toxic solid, organic, n.o.s. (Alanycarb)

IMDG（海上規制）：TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S. (Alanycarb)

ADR/RID（陸上規制）：TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S. (アラニカルブ)

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：6.1 IMDG（海上規制）：6.1 IATA-DGR（航空規制）：6.1

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：II IMDG（海上規制）：II IATA-DGR（航空規制）：II

14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当
該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

強酸化剤

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法

劇物(指定令第2条)(政令番号:14-3)

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

TWA: 時間加重平均

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。